



それぞれの機能障害についての細かいこと

## 各論その1

(内部障害系: 肢体不自由以外)



# 視覚障害

- ◆ 「視力障害」と「視野障害」とでそれぞれ等級を算出して、2つを合算する
- ◆ 視力は左右の矯正視力の**良い方が基本**となる ※平成30年7月より改正
- ◆ 視野はゴールドマン型視野計 or 自動視野計で判断 ※平成30年7月より改正
- ✓ 視力と視野で判定できる場合、ADLは加味しない



# 視覚障害

- ◆ 視力は左右の矯正視力の良い方が基本となる
  - ◆ 0～0.01 1級
  - ◆ 0.02～0.03 2級
    - ◆ 他眼が手動弁以下の場合には0.04も2級
  - ◆ 0.04～0.07 3級
    - ◆ 他眼が手動弁以下の場合には0.08も3級
  - ◆ 0.08～0.1 4級



# 視覚障害

- ◆ 視力は左右の矯正視力の良い方が基本となる
  - ✓ 視力0.2以上は他眼が0.02以下の場合のみ認定対象となる
  - ◆ 0.2 5級
  - ◆ 0.3~0.6 6級



# 視覚障害

- ◆ 視力0.01に満たないものは次のとおりとして扱う
  - ◆ 光覚弁、手動弁 視力 0
  - ◆ 指数弁 視力 0.01
- ◆ 視力0.15は0.1として扱う
- ◆ 複視により両眼を同時に使用できない場合には、非優位眼の視力を0として扱う



# 視覚障害

## ◆ 視野はゴールドマン型視野計

もしくは 自動視野計で判断

- ◆ 5級 周辺視野“軽度”欠損

または 中心視野“軽度”欠損

※平成30年7月より改正

- ◆ 4級 周辺視野“重度”欠損
- ◆ 3級 周辺視野“重度”欠損 かつ 中心視野“軽度”欠損
- ◆ 2級 周辺視野“重度”欠損 かつ 中心視野“重度”欠損

# 視覚障害



## ◆ 視野の計測条件

### ◆ ゴールドマン型視野計

- ◆ 周辺視野 I/4視標
- ◆ 中心視野 I/2視標

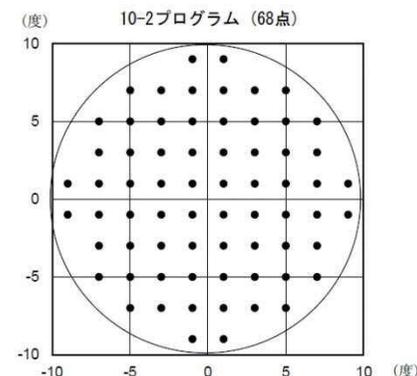
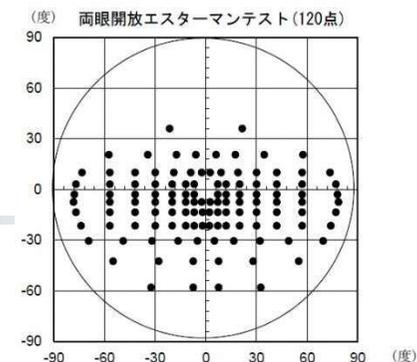
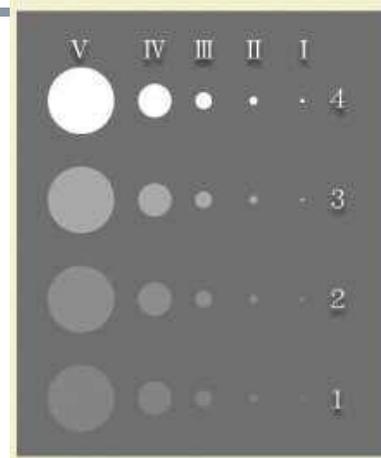
### ◆ 自動視野計

- ◆ 周辺視野 両眼開放エスターマンテストの視認点数
- ◆ 中心視野 10-2プログラムで感度26dB以上の測定点数

※視標サイズIII, 背景輝度31.4asb

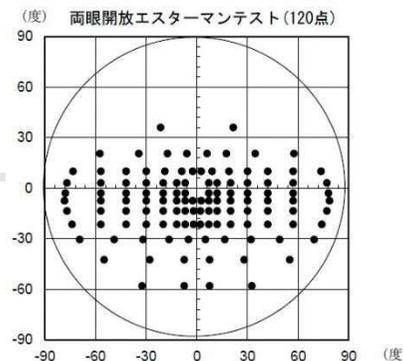
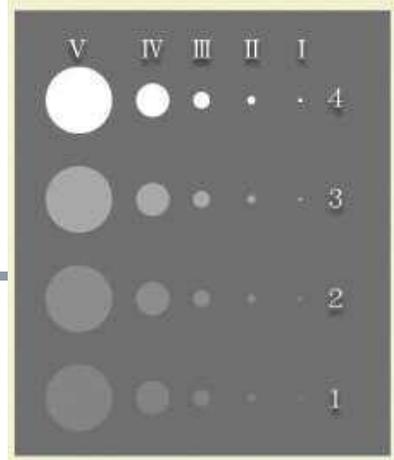
✓ どちらも視野図の添付が必須となった

ゴールドマン視野の視標



# 視覚障害

ゴールドマン視野の視標



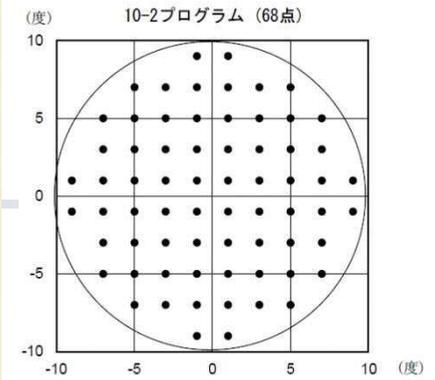
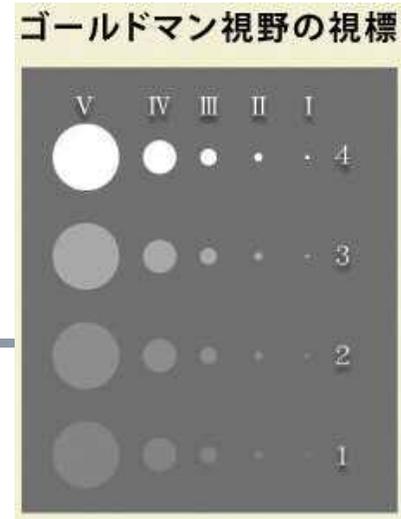
## ◆ 周辺視野“軽度”欠損

- ◆ ゴールドマン型 両眼による視野が1/2以上欠損
- ◆ 自動視野計 視認点数100点以下

## ◆ 周辺視野“重度”欠損

- ◆ ゴールドマン型 周辺視野角度の総和80度以下  
※平成30年7月より従来の「視野10度以内」から変更
- ◆ 自動視野計 視認点数70点以下

# 視覚障害



- ◆ 中心視野“軽度”欠損
  - ◆ ゴールドマン型 両眼中心視野角度56度以下
  - ◆ 自動視野計 両眼中心視野視認点数40点以下
- ◆ 中心視野“重度”欠損
  - ◆ ゴールドマン型 両眼中心視野角度28度以下
  - ◆ 自動視野計 両眼中心視野視認点数20点以下



# 視覚障害

- ◆ 両眼中心視野角度・視認点数とは？
  - ◆ (「良い方の中心視野角度の総和・視認点数」× 3  
+「悪い方の中心視野角度の総和・視認点数」× 1)  
／4
  - ◆ 小数点以下は四捨五入

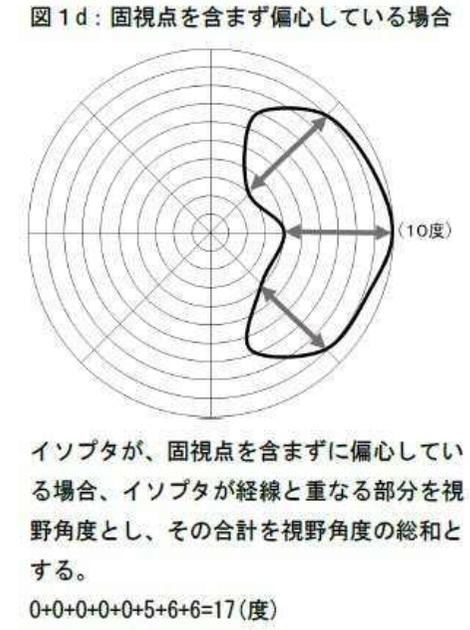
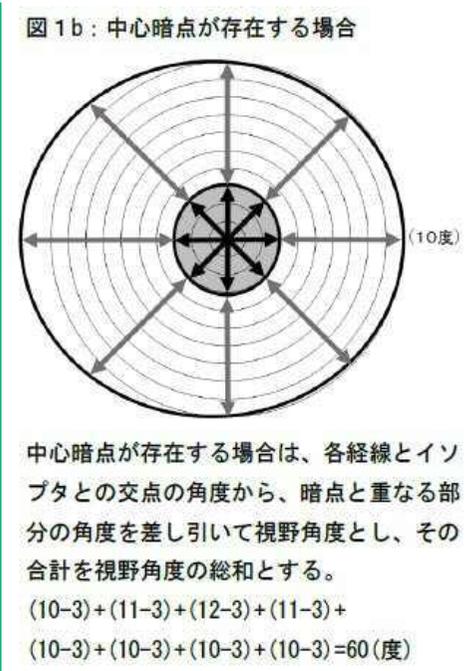
# 視覚障害

- ◆ 旧基準の「周辺視野10度以内」と新基準の「視野角度総和80度以下」

との違いは...

- ◆ 中心暗点や偏心がある場合に、一部に10度を超える領域に視野が残存していても、条件を満たすことがありうる

<条件の一部緩和>





# 視覚障害

- ◆ 中心10度以内に視野がない場合の対応
  - ◆ 周辺視野角度の総和は、I/4視標にて中心10度以内に存在しない場合は80度以下とする
  - ◆ 中心視野角度の総和は、I/2視標にて中心10度以内に存在しない場合は0度とする
  - ◆ I/4視標にて中心10度以内に視野が存在しない場合は、より条件の厳しいI/2視標でも視野が存在しないと考えられるため、これだけで視野2級と判定できる



# 視覚障害

## ◆ 輪状暗点

- ◆ ゴールドマンI/4視標にて、  
周辺の見野が残存していても、  
中心部の見野と連続していない場合には、  
中心部の見野のみで評価する

図 2 a

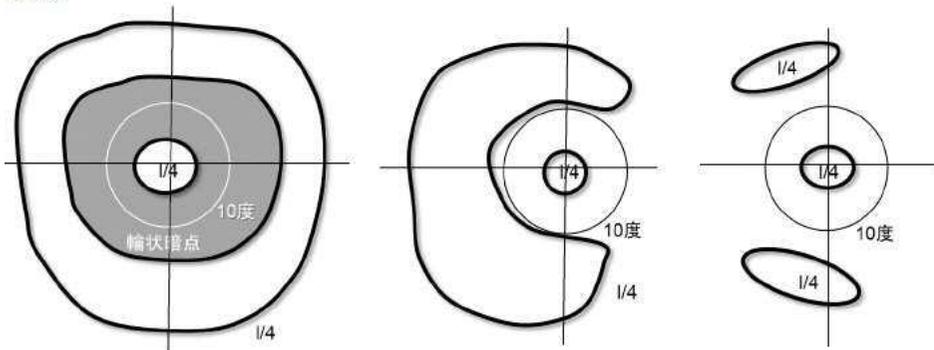
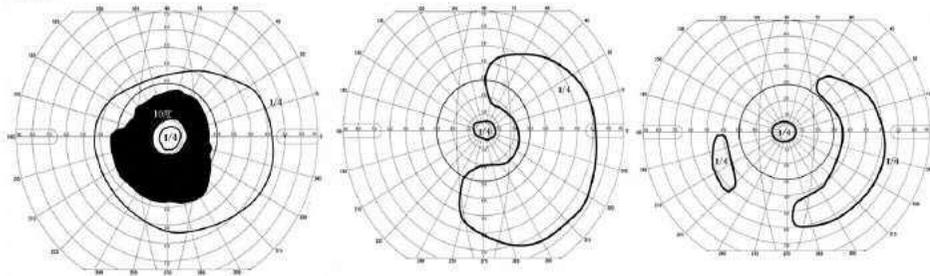


図 2 b

实例





# 視覚障害

- ◆ よくある悩ましいケース
  - ◆ 意識障害や重度の認知症・知的障害などで検査が十分にできず、「測定不能」と記載している場合
    - ◆ 他覚的に視覚喪失が確認できる眼球摘出・無眼球は視力0と認定できる
    - ◆ 眼所見(あるいは脳の画像診断)や行動観察などから障害があると推定される場合は認定できる